



インドネシアにおけるランタウ・デダップ地熱発電プロジェクトの商業運転開始について

丸紅株式会社

2022年01月07日

丸紅株式会社（以下、「丸紅」）は、インドネシア共和国（以下、「インドネシア」）におけるランタウ・デダップ地熱発電プロジェクト（以下、「本プロジェクト」）に関し、ENGIE S.A.、PT. Supreme Energyならびに東北電力株式会社と共同出資するPT. Supreme Energy Rantau Dedap（以下、「SERD社」）を通じて、2021年12月26日に商業運転を開始しました。

本プロジェクトは、SERD社がインドネシア・南スマトラ州において発電容量98.4MWの地熱発電所を建設し、30年間に亘り保守・運転し、インドネシア国有電力会社PT. PLN (Persero)（以下、「PT. PLN社」）に対して売電するものです。

インドネシア政府は、2025年までに再生可能エネルギーが占める割合を23%へ引き上げることを電力供給事業計画の中で掲げています。また、インドネシアが保有する豊富な地熱資源量の活用、および発電燃料の多様化を図るため、地熱資源の開発を推進しています。

丸紅は、サステナビリティ経営推進の一環として、世界の気候変動対策への取組みに貢献すべく、2018年9月に石炭火力発電事業および再生可能エネルギー発電事業に関する取組み方針を発表し、2021年3月には気候変動長期ビジョンを策定しました。丸紅は、日本を含む世界21ヶ国で持分容量約12GWの発電資産を保有・運営しています。これまで蓄積してきた地熱発電事業の実績・経験をもとに、本プロジェクトを通じて、インドネシアにおける電力の安定供給に貢献していくと共に、今後も積極的に再生可能エネルギーの開発に取り組んでいきます。

<本プロジェクト概要>

事業会社：PT. Supreme Energy Rantau Dedap（スプリーム・エナジー・ランタウ・デダップ）

出資比率：丸紅 27.4%、東北電力株式会社 10%、ENGIE S.A. 37.4%、PT. Supreme Energy 25.2%

所在地：インドネシア・南スマトラ州 ランタウ・デダップ地区

発電容量：98.4MW

運転開始：2021年12月26日

売電先：インドネシア国有電力会社PT. PLN社

売電期間：30年間

【インドネシアにおけるランタウ・デダップ地熱発電プロジェクト】



【関連プレスリリース】

2011年6月17日

インドネシア地熱発電プロジェクトへの参画について

https://www.marubeni.com/jp/dbps_data/news/2011/110617.html

2012年11月13日

インドネシア・Rantau地熱発電プロジェクトの長期売電契約締結の件

https://www.marubeni.com/jp/dbps_data/news/2012/121113.html

2018年6月26日

インドネシア共和国・ランタウ・デダップ地熱発電プロジェクトの融資契約締結・着工開始について

https://www.marubeni.com/jp/news/2018/release/20180626J_1.pdf